九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

凶器注目効果と有効視野

原田, 佑規

https://doi.org/10.15017/1785347

出版情報：九州大学, 2016, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	原田　佑規			
論　文　名	凶器注目効果と有効視野			
論文調査委員	主　査	九州大学	准教授	光藤　宏行
	副　査	九州大学	教授	中村　知靖
	副　査	九州大学	講師	山本健太郎
	副　査	九州大学	教授	黒木　俊秀

論文審査の結果の要旨

本論文では、犯罪の目撃場面などで生じる凶器注目効果の生起要因について、認知心理学実験を通じて検討した。第１章では、凶器注目効果の実験室研究を中心に概観し、凶器注目効果を説明しうる３つの仮説（覚醒仮説／新奇性仮説／有効視野縮小仮説）について紹介した。第２章では、有効視野縮小仮説を検討するために、覚醒度を統制したうえで、凶器を含む画像を提示した場合の数字同定率を測定し、凶器の存在によって有効視野が縮小することを示した。さらに、画像が凶器を含まない場合には、覚醒度を操作しても有効視野は縮小しないことを示す結果を報告した。第３章では、提示する画像の脅威性と新奇性を独立に操作し、有効視野の縮小には新奇性が重要な役割を果たしていることを示した。第４章では、今回の実験結果に基づいて、凶器注目効果が生じるメカニズムについての考察を行った。

以上のように本論文は、凶器注目効果の生起要因として有効視野に着目し、新たな実証データと理論を提示している。画像の作成からデータの解析まで手堅くまとめた研究であり、凶器注目効果の認知心理学的な説明モデルのみならず、実際の犯罪や臨床場面にも適用しうる知見を提供している司法心理学的研究であると言える。口頭による試験においては，(a) 覚醒／新奇性仮説の詳細と先行研究、(b)、実験・解析手法の詳細、(c) 本研究を現実場面に適用する場合の限界などについて質問がなされた。いずれの質問に対しても十分な回答がなされた。

よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。